



カット:斎藤敏行(32年入学)「アムステルダム」

会 報

東北大学教育学部
同窓会東北支部

支部創立40周年に寄せて

東北大学教育学部同窓会東北支部顧問・理事 高橋 公正 (昭和25年入学)

昭和55年の仙台支部創立以来40年、平成29年東北支部と改称されたが、歴代役員事務局そして大学関係の先生方に改めて感謝申し上げたい。

結成の経緯については、会報14号富塚先輩の「仙台支部結成の思い出」に詳細載っているので省略するが、改めて当時の塚本学部長・藤井仙台市教育長そして1回生の方々のご労苦に敬意を表したい。以後毎年11月頃に総会・記念講演・懇親会を開催してきたが、教育学部同窓会との連繋のもと有意義な活動を継続してきた。また関東支部との交流も特記したい。

各年度の同期会も開催されており、会誌の発行や1泊研修なども開催されていると聞いている。手元に昭和28年入学双葉会の会誌「ふたば」第3集があるが、カラー110頁の立派なものである。同期会も高齢化に伴い活動を中止せざるを得ない年度もあるようだ。我が二期生も昭和36年から53年間継続してきたが、参加会員が年々減少し平成26年度を最後に解散の止むなきに至った。

支部会報は平成9年に創刊号が発行され今回は23号、研究科長・学部長さんの大学の新しい課題と取組み、会員の声や総会の情報・事務局の動向など出席できない会員には欠くことができない情報源である。会報発行委員会のユニークな編集とご努力に敬意を表したい。創刊号からの会報はインターネットで見ることができるので是非ご覧

いただきたい。

教員養成課程がなくなって以来卒業生が少なくなったこと、高齢会員の逝去退会等止むを得ない事情もあるが会員数は年々減少している。平成23年度の会費納入者は383名であったが30年度は273名と100名以上の減少である。支部内外の若手会員の入会が切に望まれる。

創立40周年を機に、未加入者の勧誘と同窓会意識の高揚を切に願うものである。

令和元年度 総会のご案内

令和元年度の東北大学教育学部同窓会東北支部の総会を下記の通り行います。皆様お誘い合わせの上、ご参加ください。

記

1. 日 時 令和元年11月16日(土) 午後1時
2. 会 場 東北大学文系総合研究棟大会議室
3. 日 程
午後1時～ 総 会
午後1時50分～3時 講演会
演題「高齢者のメンタルヘルス」
講演会終了次第 懇親会(会場 中会議室)
・会費 (5,000円) ・当日お納め下さい。
4. 講 師 上埜高志氏(10頁、活動プロフィール参照)
5. お願い 同封の返信用葉書にて参加のお申し込みをお願いします。
10月31日(木)までにご投函下さい。

東北大学教育学部の道 ご案内

桂島 新一 (28年入学)

仙台メディアテイクで本を借りてください。『ふたば2012』です。、、、ページを開いてください。道はいろいろあるのですが、今回は 北面の道を案内します。

まず、文学館に行きます。杉村惇教授の静物画があります。日展に落選した高倉健君に教授は「自分の脈を掘り出さない」といいました。

次は泉館山高校です。小山喜三郎君の大作壁画は1階に七北田川 2階に抽象 3階に泉が岳が掲げられているのです。

3番めは泉高校です。宮城県教育長、鈴嶋清美君の書「虚往實帰」があります。理屈を並べる若者に対し まず 虚であれと諭したのでしょう。

4番めは富谷市東向陽台中学校です。初代校長桂島新一の校歌作詞があります。桂島は橋浦兵一教授宅に日参、討議は連日深夜となりました。

5番めは、定義西方寺です。河北文化賞に輝いた高倉健君の陶芸です。脈が「桃」になった作品です。

終点は 泉区永安寺となります。伊達家末裔伊達亮彦君は「桜」を植えました。協賛した同期生の植樹は 今も続いています。不動の記念碑「東北大学教育学部の道」が立っています。高倉健君の言葉を借りるなら「教育学部は良き師・学友に恵まれた学び舎であった」であります。

その他、南面の道がありますが割愛しました。

なつかしい木造教室

石森 幸子 (29年入学)

図工科は歩くとがたがた板がきしむ木造教室だった。

石膏デッサンには隣の資料室から大きなヴィナス像やアグリッパ像を運んだ。

デッサンと油絵は杉村教授。先生は「ここがいいですね。」とほめるが「だめです。」とは決しておっしゃらない。学生たちはそのやさしい指導のもとにのびのびと、しかし、心秘かに情熱をもって競い合っていた。河北展には大勢入選入賞した。私の同期のAさんは2年生で河北賞。そんな中で力のない私は小さくなっていた。

先輩たちは集まれば芸術論をたたかわせた。「絵は写真とは違う」「うまく描くな」「リアリティ、実感が大切だ」「黒一色で描いても豊かな色彩が感じられるようになれ。」いつも生き生きと張りのある空気があった。

「古い顔」もよく唱った。一緒に唱った仲間が最近欠け始めて、淋しい。

Aさんは、3年前、久しぶりに絵についておしゃべりし、「もうしばらく描きたいね。」と別れたが、間もなく逝ってしまった。

「なつぞら」主役のモデルが同期の奥山玲子さんと知ってびっくり。美しくいつも凜としている人だった。71歳で亡くなっていた。

ともあれ、あの教室で学んだ先輩・後輩の多くは健在で大活躍中である。あのがたびし教室は、創造の泉が湧き出るすばらしい場だったとなつかしく思う。



斎藤敏行(32年入学)
「鹿島槍の朝」

高崎に旅する

今野 健 (31年入学)

入学直後に高崎の人・山村暮鳥と内村鑑三とを知った。2人は仙台と宮城県とに縁が深い。温故知新、この7月高崎への旅に恵まれて1週間余を暮鳥の詩碑や朝政神社境内にある鑑三の記念碑や寺社巡りで過ごした。

明治42年暮鳥26歳の時、日本聖公会仙台基督協会の牧師として来仙。在任中誌友たちとの交わりを深めた。1年弱の在仙であったが、離仙後も誌友との交流は長く続いた。

大学では2年修了時にレポートの提出を課していた。私は「暮鳥の詩と生涯」のテーマで小論を仕上げ提出。片平丁の図書館通いや橋浦教授の試問のことが思い出される。平成27年5月暮鳥の「風景」の詩碑を松島町名籠に建立したが、60年ぶりの夢の実現である。

鑑三は8歳から実質1年9か月を気仙沼や石巻で過ごした。明治維新の改革により、陸前国の東部は高崎藩の所轄となり、父宣之は上級行政官として着任。途中から家族と生活を共にする。長じて札幌農学校で学び、水産学士の資格を得た。卒業後現地の吏員として水産業の振興に尽力した。あわびの卵子の日本初の発見はその時期の事である。少年時代の魚介類への親しみの効であろう。

ちなみに弟の達三郎は、後半生の16年間に尚絅女学院の英文学の教師として勤めた。また妹の宣子は、仙台の実業家木村康託に嫁した。鑑三を始め内村家と仙台・宮城との縁は深い。

他学部恩師

教員養成に心つくした林五郎先生 畑井小虎先生

長田かつよ (33年入学)

「一万年単位で考えれば、今、小高い丘も平地になるかも」と畑井小虎先生。理学部教授であり私達教育学部学生も育てて下さった先生。日曜日毎、希望する学生と共に野蒜海岸を歩きながら岩の様から、地層から、波打ち際に打ち寄せられた植物から何が分かるかを問答。考えに考え必死に話の輪に入らんとした学生の私達。帰路、一番丁で「君達の頭には蛋白質が必要。寮の食事では不足。栄養補給せよ」と一。私は就職後に、あのご馳走は“鉄火丼”と知ったという田舎娘一。

在学中、夏休みの仙台は教員免許一級を目指し単位取得の為 大学での受講をする現職の先生も多く、畑井教授は「現場の先生の学ぶ姿を見よ。頭で理解したつもりで手を汚さない教師にだけはなるべからず」と訓し、竜の口溪谷で化石採取する受講者の先生達に同行もさせてくれたことも。

思えば昭和33年の春、低空飛行で入学した私にとって、教育学部の体制（一般教養履修後に専攻希望提出）は、ありがたかった。しかも小学校教員は専門教科をもつ特色ある養成。その専門教科は総合大学故のよさで他学部の受講も。私は小学校教員養成コースで専門教科は数学（より理性をと願って）。だが理学部数学科を受講してみても「基礎力段違いで劣等感に悩む・・・」とつぶやく私に「教員には劣等感も必要」と担当の理学部教授林五郎先生は笑顔でさらりと自己変革を促した恩師。



斎藤敏行(32年入学)
「早池峯山」

東北大学教育学部に入学し在学中のこと そして、現在のこと

佐藤 建仁 (33年入学)

東北大学教育学部に入学し教養課程の学習が始まる。教養科目で法学を選択し民法を学ぶ。高校で学習しない講義内容に感激したものでした。教養課程での必修科目の英語ではスタインベックを学習しました。自分としては高校での内容を遥かに超える内容に四苦八苦したものです。最近新刊本でスタインベック関係の参考書が発行されました。あの時このような参考書があったら苦労せずにすんだと述懐しています。ドイツ語でも大変苦労しました。

大学3年生になり算数ピークを選択したので、数学専門の先生方に教わりました。鶴丸先生からは解析学、寺田先生からは代数学、御園生先生からは統計学。その他幾何学を教えてくださいました。先生方には大変ご苦労をおかけしたものと思っております。

最近(75才の時)やっていること。YouTubeによる小学生の学習指導の試みです。知人からの算術の旅人算・植木算の問合せにYouTubeで見つかった旅人算を連絡すると大変喜んでもらえました。知人の孫が小学3年生ですので小学生の教材をYouTubeで作成する事を思い立ちました。

YouTube小学3年生・算数とクリックすると、小学3年生の教材を表示できます。同様にYouTube小学4年生・算数とクリックすると小学4年生の教材を表示できます。続けてこの操作を、YouTube小学6年生・算数とクリックすると、小学6年生の教材を表示できます。こうして、80歳になった今日この頃です。



斎藤敏行(32年入学)
「穂高岳」

「東北支部」と共に活動を

中川 典雄 (37年入学)

私は昭和37年入学、教育社会学専攻で41年卒業です。当時は勉学と共にガソリンスタンドや家庭教師等でアルバイトをして学費を賄う生活でした。専攻は社会基盤の農村の実態調査が中心で、厳寒の中、青森県三沢付近の調査が印象に残ります。卒論は「稲作地帯の構造改善と農民」で宮城県鳴瀬町の調査を実行。昨年、その地区の農業生産法人を「県の食品表示ウォッチャー」として訪問、青々とした大規模水田に機械化や後継者も育ち、米麦、大豆の他にバウムクーヘン加工も行い、消費者のために生産拡大する姿をみて安心しました。

卒業時は東京五輪後の不況で就職状況はきびしく、教員採用も年度末まで決定せず、損害保険会社に就職。保険は相互扶助が原点だけに教育社会学で学んだ基本を活用できたと思います。大分市に転勤後、子供の就学の点から家族を故郷仙台へ送り、単身で大阪、東京と過ごし、関東地区同窓会に参加、退職後仙台へ戻り、東北支部に参加し、両支部の活動に参加することになりました。

東北支部は会員の範囲を拡大し、支部名称も変更し新たに動きだしました。教育制度改革も最善を追求し進行中です。東北支部も、その動きに関心を持ち、同窓生相互の活力を生かし、会員増と現役学生(今後の同窓生です)も視野に入れた具体策を取入れ、社会規範に則り、みなさんと共に活動していきたいと思っています。

創立40周年に思う

教育学部長・研究科長 八鍬 友広 (59年博士前期入学)

私が東北大学大学院教育学研究科に入学したのは、1984年のことである、奇しくもそれは、かの有名なジョージ・オーウェルの『1984年』と同年ということになる。当時の大学をめぐる雰囲気は、ジョージ・オーウェルの作品とはまったく異なり、きわめて自由なものであった。おそらく、教育学部の歴史のある側面を彩ったと思われる自主ゼミの活動は、この頃にひとつの盛期を迎えていたのではないだろうか。

70年代に発展したと思われる教育学部の自主ゼミは、80年代中葉のこの時期にも維持されており、教育学部といえば自主ゼミのことが思い出される、というのが、この時期に教育学部に入学した学生の共通した記憶だったのではないかとも思われる。

私自身は、大学院からの入学であったので、教育学部にあったそれらの自主ゼミに参加した経験はない。しかし、いわゆる内部進学してくる大学院生たちは、自主ゼミで培った雰囲気というものを色濃く身にまもっていたものである。大学院生の間でも、無数にさまざまな研究会や読書会、あるいはゼミのようなものがあつた。考えてもみれば、学問研究というものにとって、このように自由な環境こそは、もっとも重要なものであるのかもしれない。こう思いつつ翻って今日の状況に思いをいたせば、かえって『1984年』的なものに接近してはいないか、と考えさせられるところもある。

「仙台支部」の思い出

教育学部・研究科教授 笹田 博通 (48年入学)

教育学部同窓会が発足したのは、教育学部創立三十周年に当たる1979(昭和54)年で、当時私は、博士課程後期3年の課程の1年生でした。その後、1988(昭和63)年に教育学部同窓会仙台支部役員(大学関係理事)を仰せつかり、約四半世紀に亘って、仙台支部の運営に関わることとなりました。

ことに、1999(平成11)年(教育学部創立五十周年)に教育学部同窓会が本格的に発足してからは、本部理事として、あまたの課題を共有することとなりました。(因みに、発足時、「同窓生名簿」が作成・刊行されたのを憶えておりますが、この名簿は誤植が余りにも多く、同窓生の方々にはきわめて不評だったとのことでした。)

仙台支部は数年前に東北支部へ拡張されたようですが、私のイメージでは、いまだ教育学部同窓会=「仙台支部」となっております。それは、仙台支部との付き合いが長かったから一というよりも、1979~1999の二十年間、仙台支部こそが同窓会を実質的に担っていたからです。

ここで、具体的な経緯について書き記す余裕はございませんが、私は、歴代の教育学部長に上の事実を確認して戴くことに努めて参りました、その私も来年三月に定年退職を迎え、数年後には郷里へ転居する予定です。つまり、半世紀近く住んだ仙台を離れることになるわけですが、「仙台支部」は、おそらく脳裏を去らないものと存じます。



斎藤敏行(32年入学)
「北鎌尾根」

「二つのSOC」

教育学部・研究科教授 本郷 一夫 (48年入学)

昭和48年(1973年)に入学し、学生生活、教員生活を東北大学で経験させていただき、ようやく令和2年3月に定年を迎えることになった。

この間、大学を取り巻く状況は大きく変化した。大学院重点化(2000年)、国立大学法人化(2004年)を経て、最近では国立大学法人の統合も進んでいる。東北大学内においても、文科系4研究科の事務組織の統合が進められており、将来的には学部・大学院の再編の可能性もある。

想像を超える変化の時代の中で、これから老年期を迎えるのに当たって、私は二つのSOCを大切にしたいと考えている。一つは、アントノフスキーが健康生成論の中で述べた「首尾一貫感覚」(Sense of Coherence)である。これは、人生の出来事を理解可能、制御が可能で、有意義なものと捉える感覚である。もう一つは、バルテスの提唱する「補償を伴う選択的最適化理論」である。自分のやりたいことを選んで(Selection)、適度に(Optimization)、周りの助けを借りながら(Compensation)、やり遂げるということである。これらによって人はストレスから守られる

変化の大きな時代において、時代に合わせて変化していくことも大切かもしれないが、変わらないものを持ち続け、自分の選択した目標に向かって進んでいくことは個人にとっても組織にとっても重要ではないかと思う。

学生時代の思い出

同窓会関東支部会長 星 永揚 (37年入学)

私が教育学部で学んだのは今から半世紀以上も前(昭和37~41年)、「60年安保闘争」の余韻が残り、加えて「宮教大分離反対闘争」の最中であつた。振り返ると大方は忘却の彼方にあるものの、今でも鮮明に記憶に残るものも多く懐かしく思い出される。

川内教養部時代の2年間、米軍払い下げのカマボコ型教室での授業は時々さぼり、暇を見つけてはアルバイト(家庭教師・スーパー店員・八百屋の配達等なんでも)、パチンコに励み、「良く遊び、程よく学べ」を地で行く日常で青春を存分に謳歌した。2年最後の試験では必須単位を落としそうになり、生物の某教授に泣きつき事なきを得た。(汗顔の至りで忘れられない一件である)

片平の学部2年間(教育社会学専攻)は、先輩・院生と一緒に機会が多く、恩師の温かい指導と相まって勉学姿勢も前向きになった。とかく合研(院生・学部生の溜まり場)での論議・雑談は絶えることなく、人生の方法論を学び鍛えられる格好の場であつたと今でも感謝している。また、何かにつけ打合せ・激励会・反省会と称し「飲み会」が設定され、多くの先輩の言動で鍛えられた。「現場第一主義」の研究室方針は今でも私のバックボーンとなり支えられている。心から感謝だ。

後期高齢者となった昨今、少しでも教育学部の発展と後輩の支援に役立てることを願っている。



高藤敏行(32年入学)
「槍ヶ岳」

「比較教育・国際教育を追い求めて—イギリスの地域研究—」

東北大学教育学部・研究科教授 宮腰 英一 (48年入学)

はじめに

○比較教育学とは：様々な国・地方や文化圏の教育について、空間的に異なる複数の点に着目し、比較の方法を用いて分析することにより、一定の法則性や独自の類型を見いだすことを目的とする専門学問分野。

○日本モデルの特徴：圧縮された近代化 (compressed modernization)。

○日英の希代の教育家と比較教育学の先駆者、
・澤柳政太郎 (1865-1927)、・Sir MICHAEL ERNEST SADLER(1861-1943)、・阿部重孝 (1890-1939)

1. WCCES第4回東京大会 (1980年)、主催 日本比較教育学会 (平塚益徳会長)、国立教育研究所、ユネスコ本部 (パリ)、日本ユネスコ国内委員会、
・テーマ「教育における伝統と革新」、日程 1980年7月7日～10日、
・参加者、海外31ヶ国240人、国内162人

2. 比較教育学プロジェクトへの参加

①国際バカロレア研究 (代表 西村俊一) 東京学芸大学海外子女教育センター研究協力者 (昭和62年～平成2年度)、②後期中等教育比較研究 (代表 手塚武彦『後期中等教育の史的展開と政策課題に関する総合的比較研究』(平成2年～4年度)、③比較教育風俗研究 (代表 石附実) 大阪市立大学『研究談叢 比較教育風俗』(平成4年度～)、④学校と地域社会の連携に関する国際比較研究 (国立教育研究所 平成6年～11年度) ⑤『大学評価に関する総合的比較研究(平成6年～8年度) (代表 桑原敏明)』⑥日本学術振興会人文・社会科学振興プロジェクト研究 (平成15年～19年度)

3. ロンドン大学教育研究院 (IOE) 留学 (1996～1997) での転機

①博士学位論文の執筆②イギリスのパブリック・スクール、グラマー・スクール改革の歴史行政学研究③『19世紀英国の基金立文法学校：チャリティの伝統と変容』(創文社2000年) ④ロンドン大学教育研究院との学術交流協定締結

4. これまでに企画したプロジェクト

①国際学校の研究、『国際化時代における外国人子女の学校教育受け入れ体制に関する比較研究—日本・イギリス・ドイツ・タイの比較調査研究—』松下国際財団1992～3年、等。②食文化の国際比較、『学校給食にみる食文化の国際比較—宗教との関わりを中心に—』味の素食文化センター1993年、③教育政策研究、『イギリス労働党政府の学校改善ストラテジー開発に関する調査研究—底辺校の処理と再生—』松下国際財団1998～1999年、
・『地域教育経営サポートシステムの構築に関する調査研究』平成11年度～12年度科学研究費補助金 (基盤研究(C)(2))。・『イギリスの教育困難校の再生施策にみる公教育制度の転回』平成11年度～12年度科学研究費補助金 (基盤研究(B)(2))、
・『イギリスにおける教育民営化政策に伴う学校運営の定型化・規格化のパラドクス』平成14年度～15年度科学研究費補助金 (萌芽研究)、④教育改革の国際・比較研究、
・『教育行財政におけるニュー・パブリック・マネジメントの理論と実践に関する比較研究』平成13年度～15年度科学研究費補助金 (基盤研究(B)(2))、
・『公私協働とネットワーク化による教育運営サポートシステムの構築に関する国際比較研究』平成16年度～18年度科学研究費補助金 (基盤研究(A)(1))、
・『ネットワーク型ガバナンスによる教育支援システム再編に関する日英比較研究』平成19年度～20年度科学研究費補助金 (基盤研究(B))、
・『子ども・青少年行政の統合化と専門家養成に関する国際比較研究』平成21年度～23年度科学研究費補助金 (基盤研究(B))、
・『子ども・青少年育成活動における自治体行政とNPOの協働に関する日英比較研究』平成24年度～26年度科学研究費補助金 (基盤研究(B))、
・『地方創生にはたす教育施設・人材の新たな活用に関する日英比較研究』平成27年度～30年度科学研究費補助金 (挑戦的萌芽研究)

おわりに、教育学を超えた人文社会科学系の研究者との共同研究による新たな視点や方法の発見。

平成30年度 東北支部事業報告

<p>顧問会・監査会 30年3月31日(土) 午前10時00分～ 会場：文系総合研究棟 第1回支部役員会 30年5月12日(土) 午前10時～ 会場：文系総合研究棟 306教室</p> <p>第2回支部役員会 30年8月18日(土) 午後10時00分～ 会場：文系総合研究棟 306教室</p> <p>30年10月1日(月)「会報22号」発行 30年10月6日(月)「会報22号」発送 教育学部同窓会東北支部 第2回(仙台支部第39回) 30年11月10日(土)13時～ 会場：文系総合研究棟大会議室</p> <p>第3回支部役員会 31年1月12日(土) 午後5時～ 会場：ホテルJALシティ仙台</p>	<p>協議事項 ①役員補充について ②平成30年度第2回総会時講師について ③その他 ④平成29年度会計監査</p> <p>報告事項 ①平成29年度仙台支部事業報告・会計決算報告 ②平成29年度仙台支部事業報告・会計決算報告の承認 協議事項 ③平成30年度東北支部事業計画・支部会計予算案 ④平成30年度第37回総会時講師について ⑤平成30年度東北支部総会について ⑥「会報22号」発行について ⑦役員改選(事務局・年度理事改選)について ⑧東北支部での会員増について ⑨その他</p> <p>協議事項 平成30年度東北支部第2回(仙台支部第39回)総会について ①講演会講師・演題の確認 ②総会・講演会・懇親会における理事の役割分担 ③第3回支部役員会における理事の役割分担 ④その他(各委員会から)「会報22号」発行</p> <p>連絡事項 ①支部総会案内状・会報・会費納入振替用紙等の発送事務について ②第3回支部役員会の日時と協議事項・連絡事項</p> <p>総 会 ①平成29年度事業報告及び会計報告について ②平成29年度会計監査報告の承認について ③平成30年度事業計画及び会計の中間報告について</p> <p>講演会 講師・演題 宮腰英一氏「比較教育学を目指して：英国のエアリアスタディを中心に」 (会場 文系総合研究棟中会議室 15：15～17：30)</p> <p>懇親会 ①東北支部第1回(仙台支部第39回)総会会計報告 ②平成30年度東北支部事業・支部会計中間報告</p> <p>報告事項 ①東北支部第2回(仙台支部第39回)総会の反省 ②平成31年度東北支部事業計画・会計予算案について ③役員会・総会の持ち方について ④東北支部第3回(仙台支部第40回)総会日時の確認</p>
---	--

平成30年度 東北支部会計決算報告

平成31年3月30日

I 一般会計

1. 収入の部

(△ 予算との比較減B-A 単位:円)

	今年度予算額A	今年度決算額B	比較増減	備 考
会 費	270,000	292,430	22,430	会費273名分
繰 越 金	271,984	271,984	0	前年度繰越金
雑 収 入	1,016	21,000	19,984	懇親会残金、祝儀
合 計	543,000	585,414	42,414	

2. 支出の部

(△ 予算との比較減B-A 単位:円)

	今年度予算額A	今年度決算額B	比較増減	備 考
事 務 局 費	210,000	177,485	△ 32,515	
①印刷費	70,000	66,746	△ 3,254	資料、葉書等印刷
②消耗品費	10,000	7,376	△ 2,624	用紙、インク等
③備品費	7,500	103	△ 7,397	文具類
④事務手当	25,000	25,000	0	事務手当
⑤通信連絡費	95,000	78,260	△ 16,740	
⑥雑費	2,500	0	△ 2,500	送金料、印字代
会費振込費	30,000	26,536	△ 3,464	会費振込手数料
会議費	50,000	41,048	△ 8,952	役員会他
会報費	75,000	73,720	1,280	
①印刷費	65,000	63,720	1,280	会報印刷代
②通信連絡費	10,000	7,577	△ 2,423	会報発行委員会会議
総 会 費	60,000	35,000	△ 25,000	
①会場費	20,000	0	△ 20,000	会場使用料
②表示関係費	5,000	5,000	0	演題、看板等
③装飾費	5,000	0	△ 5,000	
④講演会費	30,000	30,000	0	講師謝礼、車代
慶 弔 費	10,000	0	△ 10,000	弔電等
雑 費	10,000	10	△ 9,990	貸付利子等
予 備 費	98,000	32,842	△ 65,158	旅費卒業祝賀会費
運 用 基 金	0	0	0	
合 計	543,000	384,218	△ 158,482	

3. 残 高 585,414円 - 384,218円 = 201,196円(次年度へ繰越)

II 運用基金

1. 前年度繰越900,000円 + 収入0円 - 支出0円 = 差引残高900,000円(ゆうちょ銀行定期預金に)

会 計 監 査

平成30年度東北大学東北支部の会計決算にあたり、通帳・会計出納簿・領収証を点検したところ適正に処理されていたことを報告いたします。

平成31年3月31日

監事 吉野 福武
監事 井本 佳宏

令和元年度 東北支部事業計画(案)

顧問会・監査会
31年3月30日(土)
午前10時00分～
会場：文系総合研究棟
第1回支部役員会
元年5月18日(土)
午前10時30分～
会場：文系総合研究棟
306教室

第2回支部役員会
元年8月17日(土)
午後10時00分～
会場：文系総合研究棟
306教室
教育学部同窓会東北支部
第3回(仙台支部第40回)
元年11月16日(土)13時～
会場：文系総合研究棟大会議室

第3回支部役員会
2年1月11日(土)
午後5時～
会場：ホテルJALシティ仙台

顧問会・会計監査会
2年3月28日(土)

- 協議事項** ①役員補充について ②令和元年度第3回総会時講師について ③その他
④平成30年度会計監査
- 報告事項** ①平成29年度仙台支部事業報告・会計決算報告
②平成30年度仙台支部事業報告・会計決算報告の承認
③令和元年度東北支部事業計画・支部会計予算案
④令和元年度第3回総会時講師について
⑤「会報23号」発行
⑥役員改選(事務局・年度理事改選) ⑦東北支部での会員増
- 協議事項** 令和元年度東北支部第3回(仙台支部第40回)総会
①講演会講師・演題の確認 ②総会・講演会・懇親会における理事の役割分担
③第3回支部役員会における理事の役割分担 ④その他(各委員会から)「会報23号」発行
- 連絡事項** ①支部総会案内状・会報・会費納入振替用紙等の発送事務9月28日(土)
②第3回支部役員会の日時と協議事項・連絡事項
- 総 会** ①平成30年度事業報告及び会計報告
②平成30年度会計監査報告の承認
③令和元年度事業計画及び会計の中間報告
- 講演会** 講師・演題 上埜高志氏「高齢者のメンタルヘルス」
(会場 文系総合研究棟中会議室 15:15～17:30)
- 懇親会** ①東北支部第3回(仙台支部第40回)総会会計報告
②令和元年度東北支部事業・支部会計中間報告
- 報告事項** ①東北支部第3回(仙台支部第40回)総会の反省事項
②令和2年度東北支部事業計画・会計予算案について
③役員会・総会の持ち方について
④東北支部第4回(仙台支部第41回)総会日時の確認
- 協議事項** 令和2年度総会時講師について、令和元年度会計決算監査

令和元年度 東北支部会計予算(案)

平成31年4月1日

I 一般会計

1. 収入の部

(△ 予算との比較減B-A 単位:円)

	前年度予算額A	今年度決算額B	比較増減	備 考
会 費	270,000	270,000	0	270名×1000
繰 越 金	271,984	201,196	△ 70,788	前年度繰越金
雑 収 入	1,016	1,014	△ 2	懇親会残金、祝儀
合 計	543,000	472,210	△ 70,790	

2. 支出の部

(△ 予算との比較減B-A 単位:円)

	前年度予算額A	今年度決算額B	比較増減	備 考
事 務 局 費	210,000	195,000	△ 15,000	
①印刷費	70,000	70,000	0	資料、葉書等印刷
②消耗品費	10,000	8,000	△ 2,000	用紙、インク等
③備品費	7,500	0	△ 7,500	文具類
④事務手当	25,000	25,000	0	事務手当
⑤通信連絡費	95,000	90,000	△ 5,000	総会・役員会案内
⑥雑費	2,500	2,000	△ 500	送金料、印字代
会費振込費	30,000	45,000	15,000	会費振込手数料
会議費	50,000	40,000	△ 10,000	役員会他
会報費	75,000	75,000	0	
①印刷費	65,000	65,000	0	会報印刷代
②通信連絡費	10,000	10,000	0	会報発行委員会会議
総 会 費	60,000	35,000	△ 25,000	
①会場費	20,000	0	△ 20,000	会場使用料
②表示関係費	5,000	5,000	0	演題、看板等
③装飾費	5,000	0	△ 5,000	
④講演会費	30,000	30,000	0	講師謝礼、車代
慶 弔 費	10,000	10,000	0	弔電等
雑 費	10,000	10,000	0	貸付利子等
予 備 費	98,000	62,210	△ 35,790	旅費卒業祝賀会費
運 用 基 金	0	0	0	
合 計	543,000	472,210	△ 70,790	

II 運用基金

1. 前年度繰越900,000円+収入0円-支出0円=差引残高900,000円(ゆうちょ銀行定期預金に)

講師プロフィール

(令和元年度 総会・講演会)

- 上埜高志(うえの・たかし)先生 (東北大学教授)
昭和29年7月 宮城県生まれ
昭和55年3月 弘前大学医学部卒業
7月 東北大学医学部附属病院神経科精神科
医員(研修医)、医員(文部教育助手)
平成4年9月 博士(医学)(東北大学)
平成5年6月 東北大学教育学部視覚障害学講座助
教授
平成14年4月 東北大学大学院教育学研究科人間発達
臨床科学講座コミュニティ心理学分野
教授
平成16年4月 国立大学法人東北大学大学院教育学研
究科人間発達臨床科学講座臨床心理学
分野教授
平成23年4月 国立大学法人東北大学教育研究評議会
評議員
平成24年4月 国立大学法人東北大学大学院教育学研
究科副研究科長(併任)、教育学部副
学部長(併任)(~2015年3月)
平成26年4月 国立大学法人東北大学大学院教育学研
究科臨床心理相談室室長(併任)
(~2019年3月)
平成30年4月 指定国立大学法人東北大学大学院教育
学研究科教育心理学講座臨床心理学分
野教授

斎藤敏行(32年入学)「神室初冬」



《会費納入のお願い》

年会費 1,000円

令和元年度分の会費納入のお願いです。現在会報等発送をお願いしている業者のメール便に対する規制が変わり、総会案内や会費納入のお願い等の文書を同封できないことになりました。会員の皆様の会費納入方法は変わりませんので、よろしくご願いたします。

同封の振り込み用紙をお使いいただき、会費をご納入ください。

なお、振込用紙を使っていただくと、本会で手数料を負担することになりますので、総会・講演会・懇親会参加の際にご納入いただくと手数料が不要ですので助かります。

余 滴

40年の長きにわたり、教員養成大学(学部・研究科)に関わってきた筆者は、現職時代、教師が自らをいかに律し、教場や社会にいかにか臨むべきかを、現職教員である院生たちや同僚の教官たちと、生起する種々の課題に取り組みながら、日夜とことん話し合っ情報交換し共通の理解を得た。

私たちが到達した結論は、教師はあくまで脇役に徹し、自らの我欲をかなぐり捨て、飾ることなく、蔭の力となって、教え子のため、つねに支え続けるほどの決意と情熱が必要というものであった。古い教師観であるかもしれないが、そうあるべき、そうありたいという意見で一致した。

若かった私たちは、教え子の親の就職、教え子の結婚の支援、教え子が被害を受けた事件の訴訟の応援等々、本務からかなり外れた事案について、とり組んだものだった。知人たち(弁護士・企業家)や健在だった父(大学教授・法律)の協力を得て、一定の成果を得た。若気の至りでやりすぎの傾向はあったが、そうせざるを得ない状況もあった。

(編集子)

教育学部同窓会事務局だより

本部同窓会事務局長 神谷 哲司 (H2年入学)

新たな令和という時代を迎え、本部同窓会も、新たな気持ちで諸課題に向かってまいりたいと思います。今年度の同窓会事業といたしましては、従来の(1)卒業・修了学生の祝賀会援助事業、(2)現役学生への海外学会発表渡航費援助事業、(3)仙台支部寄附金による博士論文執筆援助事業、(4)「キャリア支援セミナー」に加え、昨年度からスタートしました(5)卒業研究学会発表援助事業と、(6)学部生学会参加費援助事業を進めてまいります。また、会員の相互交流をより推進していくために、(7)同窓会会員相互交流促進援助事業もより精力的に進めてまいりたく考えております。

この、会員相互交流促進支援事業は、同窓会会員の卒業生の皆様はもちろん、現役学生(学生会員)をも含めて会員同士の交流の場を支援していく事業となっています。同期会や現役学生との交流のご希望などございましたら、その規模は問い

ませんので、ぜひともご相談、ご応募ください。申請書等は同窓会ウェブページにごございます。

また、10月26日には本部同窓会の総会・記念講演会・懇親会が予定されております。記念講演には、長年、本部同窓会を支えていただきました、本年度でご退職予定の笹田博通教授を迎え、「教育学部のこれまでとこれから」としてお話させていただくとともに、近年の同窓会事業の説明や、学生支援事業の報告などを予定しております。みなさまなにとぞ、お誘いあわせの上、ご参集いただきたくお願い申し上げます。

同窓会のウェブページにおいて、様々な支援事業を始め、本部の総会や、東北支部、関東地区同窓会のお知らせなども掲載してまいりますので、是非ともご覧ください。「東北大学教育学部同窓会」でクリック!です。

(事務局アドレス: sed-alumni@sed.tohoku.ac.jp)

フォトアルバム

①



写真図版説明

①昭和41年2月19日 教育社会学専攻
追い出しコンパ(於 河畔荘)

②同上、追い出しコンパの一コマ

③昭和31年11月 教育社会学専攻演習
三沢市での記念撮影

②



③



本フォトアルバム掲載の写真3点は、東北大学教育学部同窓会関東支部長 星 永揚氏の提供によるものです。会報発行委員会より心よりお礼を申し上げます。

東北支部役員名簿

(平成30.11.11～令和元年総会時)

事務局・各委員会

顧問	25 高橋 公正	26 佐々木一洋
	28 永野 昌一	31 雪江 美久
	36 阿部 琢也	36 岡崎 忠
	37 関口 隆	大学 工藤与志文
支部長	39 渡邊 宣隆	
副支部長	39 鹿野 毅	39 軍司 啓
	39 光井 正	50 吉川 邦彦
参与	24 富塚 英雄	
"	29 石森 幸子	31 柝澤 怜
"	32 佐々木亀三男	33 佐藤 健仁
"	35 伊藤 昭	39 大浪 栄一
"	元学部長 菊池 武剋	元学部長 細川 徹
"	元学部長 荒井 克弘	元学部長 本郷 一夫
"	元学部長 宮腰 英一	元学部長 高橋 満
理事	24 佐藤 弘	
"	25 高橋 公正	
"	26 池田 和夫	26 三浦 貞昌
"	27 青木 敏浩	27 阿辺 博亮
"	28 桂島 新一	28 古關 幸生
"	29 市川 宏	29 佐藤庸太郎
"	30 千葉 俊雄	
"	31 今野 健	31 福井 正子
"	32 煤田 泰蔵	32 竹澤錬太郎
"	32 村上 重作	
"	33 金岡 昭房	34 山形美也子
"	34 工藤 忠久	
"	35 泉 豊	35 岡本 幸子
"	36 小野 惇夫	
"	37 賀屋 義郎	37 中川 典雄
"	38 文屋 國昭	38 文屋 優
"	39 太田 將勝	39 朴澤 徳昭
"	40 吉野 信武	
"	41 安住 裕	48 櫻田 博
"	50 別府 成裕	
"	51 日下 毅	51 佐藤 邦宏
"	52 白澤 利広	54 南城 一之
"	57 川上 芳夫	H 4 吉植 庄栄
監事	40 吉野 信武	大学 青木 栄一
大学理事	後藤 武俊	

事務局

事務局長 39 軍司 啓
事務局補佐 37 関口 隆

会則検討委員会

委員長 31 柝澤 怜
副委員長 31 今野 健
委員 28 桂島 新一 39 軍司 啓

名簿作成委員会

委員長 33 金岡 昭房
副委員長 35 泉 豊
委員 25 高橋 公正 39 鹿野 毅

会報発行委員会

委員長 39 太田 將勝
副委員長 50 吉川 邦彦
委員 38 文屋 優 39 三井 正

会計委員会

委員長 32 坂野 優子
副委員長 41 朴澤 徳昭
委員 39 岩井 良樹 41 鈴木きよ子

後記

会報24号をお届けいたします。ご多用のなか、取材にご協力いただき、ご寄稿いただきました方々には、衷心より、感謝申し上げます。

総会にご出席の際には、この会報をご持参いただきますようお願いいたします。

事務局

〒982-0262 仙台市青葉区西花苑2-7-18

軍司 啓 TEL 070-5322-3322